

## 2019年度 GLIP 英語科目 イマージョン合宿 報告書

### 1. 概要

- ・出張経費...【補助金】スーパーグローバル大学創成支援
- ・研究課題...GLIP 英語科目「英語 A1」 “English Immersion Camp”
- ・開催地...大学セミナーハウス（東京都八王子市下柚木 1987-1）
- ・日程...2019年9月9日～12日
- ・参加人数...学生 24 人 / 担当教員 1 人（Joe Ragsdale） / アシスタント 5 人（ELCアドバイザー1人、大学院生4人）

### 2. 実施日程表

#### 9月9日（月）

- 15:00 スタッフ・ミーティング
- 16:00 セミナーハウス前に全員集合
- 16:30-18:00 授業
- 18:00-19:00 夕食
- 19:00-22:00 自由時間
- 22:00 就寝

#### 9月10日（火）

- 7:00 起床
- 7:30-8:30 朝食
- 8:30-9:00 自由時間
- 9:00-12:00 授業
- 12:00-13:00 昼食
- 13:00-13:30 自由時間
- 13:30-18:00 授業
- 18:00-19:00 夕食
- 19:00-22:00 自由時間
- 22:00 就寝

#### 9月11日（水）

- 7:00 起床
- 7:30-8:30 朝食
- 8:30-9:00 自由時間
- 9:00-12:00 授業
- 12:00-13:00 昼食
- 13:00-13:30 自由時間
- 13:30-18:00 授業
- 18:00-19:00 夕食
- 19:00-22:00 自由時間
- 22:00 就寝

9月12日(木)

7:00 起床

7:30-8:30 朝食

8:30-9:00 自由時間

9:00-12:00 授業

12:00-13:00 昼食

14:30 現地解散

### 3. 実施内容

今年度のイマージョン合宿は、例年通り主にスピーキングに重点を置きつつ四技能を複合的に伸ばす目的で授業計画が組まれた。参加学生は1年次学生が中心で、さまざまな専攻言語を学ぶ学生が履修した。英語レベルは中級から中上級で、学生間である程度の差があったものの、グループワークでは各学生のレベルが均等になるよう配慮してグループ分けをし、学生同士でも互いに高め合うことができるような環境をつくった。

参加者は全員ネームプレートをつけ、イベント開始直後から互いに名前を呼びやすくする工夫をした。これにより、英語のスピーキングにあまり自信のない学生も、積極的に他の参加者に話しかけやすくなったようだ。

授業は本学の教員であるジョー・ラグズデール先生によって進められた。内容的には、アメリカを中心とした英語圏の文化・社会の広範なトピックをあつかった。同時に、英語によるディスカッションやプレゼンテーションで用いられる表現を学び、効果的なコミュニケーションの作法を段階的に身につけるためのタスクが多数盛り込まれた。

1日目は、「文化」という言葉の定義についてブレインストーミングをおこなったり、「目に見える文化」と「目に見えない文化」の違いについてディスカッションやプレゼンテーションをおこなった。また、とくにアメリカの文化にフォーカスを絞り、アメリカ文化の特質について教員による講義をふまえてブレインストーミングやディスカッションをおこなった。

2日目は、前日の授業内容に関する小テストなどをおこないつつ、アメリカ的価値観についてのディスカッションを続けた。さらに、日本におけるアメリカ文化の受容について学生全体で考え、異なる文化同士が混ざり合うときにどのようなことが起こるのか、具体例に即してグループ内でディスカッションをおこない、リサーチをおこなった。

3日目は、「アメリカナイゼーション」について考えを深めるため、インタビュー・シートを用いて学生同士でインタビューをおこない、意見交換をおこなった。その後、最終日のプレゼンテーションに向けてグループごとに準備をすすめた。プレゼンテーションで用いられる表現を実際に使うアクティビティをおこない、グループごとに取り上げる特定の国の文化についてリサーチをすすめた。

最終日は、前日までの内容の総まとめとして、グループごとに文化についてのプレゼンテーションをおこなった。

#### 4. アシスタントによる授業補助

今回のイマージョン合宿では5人のアシスタントが参加し、担当教員と協力しながら学生のサポートにあたった。ELCアドバイザーと大学院生が協力してサポートにあたり、授業内外で学生が積極的に英語を使うことのできるような環境を提供することができた。

授業ではさまざまなグループワークや少人数によるディスカッションがおこなわれたが、つねにすべてのグループにアシスタントが参加し、それぞれの学生がアクティブに活動に参加し続けられるよう配慮した。また、授業外の時間にも、つねに英語によるコミュニケーションをおこなうよう、アシスタントが学生を誘導した。結果として、英語のみを使用する環境で集中的に言語技能を鍛えるという本イベントの目的を達成することができた。

台風の影響で当初のスケジュールを多少変更し、開始時間を遅らせる処置をとったが、追加課題を課すことなどにより柔軟に変更に対応することができた。また、イベントの途中で体調を崩し、病院で診察を受けた学生がいたが、アシスタントがつねに学生に付き添い、GLIP運営スタッフと協力しながら対応したため、学生はすぐに授業に復帰し、最後まで日程を消化することができた。

全日程をとおして、アシスタントは詳細なレポートを毎日GLIP運営スタッフに送り、すべての学生が問題なく授業に参加できているか確認しながらイベントを進めることができた。

5. 写真  
・授業の様子







・食事の様子



・参加者全員の集合写真



以上

世界言語社会教育センター 特任講師  
GLIP 英語科目コーディネーター 相木 裕史